

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立志木高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指してきた方向が示されている学校像である。現状をより広く把握・分析するとともに、学校創設時の精神やコンセプトを振り返って、現在の学校像より上位にあるべき目標を意識しつつ、目指す学校像を更に具体的かつ魅力的なものにしていただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が五つの柱として設定されている。やや網羅的になっているので、学校の置かれた状況などを把握した上で、中期的視点から、更に検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会、特に委員長が中心となって、学校自己評価システムが運営されている。本システムを運営するための組織化が不十分であるので、組織の見直しを図るとともに、教職員全体が参画するように更に工夫していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	重点目標達成のため、分掌・学年等の独自シートが作成されており、「どのような状況になるのが目標か」という生徒の変容に着眼した項目が立てられている。学校全体のシートには、方策の達成状況が確認しにくい項目が残っているので、教育力を高めるための効果的な指標を設定し、評価項目・方策との連鎖をより明確にして取組を検証することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	評価運営委員会、企画委員会、職員会議において、校長が現状に関する教職員の共通理解を図ろうとしている。校長がリーダーシップを的確に発揮して、中・長期的なビジョンを明確に示し、全教職員が目標達成に向けて共通理解と組織的な取組を行い、寄せられる期待に応えるように改善していただきたい。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	学校関係者の意見やアンケート結果を教職員に示し、学校評価懇話会においては、生徒に各クラスの意見を報告させるなどのユニークな取組を行っている。学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析して新たな課題を析出し、方策を見直すなど、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。	
特記事項			